



TITLE:

天文同好會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

天文同好會觀測部月報. 天界 1929, 10(105): 63-64

ISSUE DATE:

1929-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161490>

RIGHT:

天文同好會觀測部月報

彗 星 課

山 本 一 清

近頃の彗星だより

やはり依然としてニウジミンミフォルブスミの二彗星が見えてゐるだけである。ペラインやジャコビニについては何の音沙汰も無い。

ニウジミン彗星の軌道は、パワー・キリス兩氏が最初に算出したもの(I.A.U. 回報227), エベル氏のもの(同228), パワー・キリス兩氏の改正値(P.A. 368, p. 473), エーベル氏の改正値(I.A.U. 回報232)及びクロムメリン老のもの(B.A.A. 回報78), 等が今までに發表されてゐるが、其の中の最も信頼し得るものとしては、

近日點通過	1929年六月28日2
軌道面の傾斜角	3° 41' 4"
軌道の離心率	0.585
週期	10.49

であつて、多分、土星族中の一新星である。週期が木星の公轉週期に近いので、軌道形の攝動に關し、興味ある問題が提供されるだらうと思はれる。目下の天空位置は「やぎ」座の東邊を順行してゐる。光輝は八月初め頃13等級であつたが、其の後衰へて、今は16等級ぐらゐであるから、最大口径の望遠鏡でも觀測は困難である。

フォルブス彗星は、ウド氏(I.A.U. 回報229), インネス氏(同232), ドウソン氏(同233)及びウド氏の改正値(同234), クロムメリン老(同235)等の算出した軌道がある。ウド氏ミクロムメリン氏の改正値は下記の通りで、それが最も確からしい。

近日點通過	1929年六月24.日714	(宇宙時刻)	同6月25.日4941
近日點の引數	257° 44' 9."0	}	258° 46' 3."7
昇交點の黃經	26 13 25.8		25 47 2.08
軌道の傾斜	4 35 39.7		4 36 1.95
軌道の離心率	0.553684		0.555112

